

Y12a 岡山 188cm 望遠鏡写真乾板デジタル化データの SMOKA/pplate システムによる公開

小山舜平, 中島康, 小澤武揚, 古澤順子, 古澤久徳, 柳澤顕史 (国立天文台)

旧・岡山天体物理観測所の 188cm 望遠鏡では、1960 年から 1987 年にかけて写真乾板による観測が行われてきた。これらの乾板には過去の空を記録した貴重な観測データが保存されている。

国立天文台天文データセンターが運用する日本の可視・赤外望遠鏡デジタルデータアーカイブ SMOKA (Subaru-Mitaka-Okayama-Kiso Archive) では、このプロジェクトの一環として岡山 188cm 望遠鏡写真乾板のデジタル化データ公開を 2025 年 10 月に開始した (<https://pplate.nao.ac.jp/>)。公開には、木曾観測所写真乾板データ公開で実績のある写真乾板デジタルアーカイブシステム (pplate) を用いている。pplate は写真乾板データに特化したシステムで、観測座標、観測日時、乳剤、フィルターなどによる検索が可能である。

現在公開しているのは、国立天文台天文情報センター主導で市販スキャナを用いてデジタル化した、1960 年から 1987 年までの撮像乾板 2662 枚のデータ (BMP 形式) である。今後、WCS 情報や研究利用に必要な観測情報をヘッダに付与した FITS 形式データの公開も予定している。また将来的には、国立天文台と上海天文台の国際共同事業で高精度専用スキャナを用いて作成中のデジタル化データについても公開を進める計画である。

本発表では公開システムの概要と今後の展開について報告する。